

■ ユダヤ人が待ち望んでいる天の御国

マタイの福音書で言われている天の御国とは、神の御国を指しています。本来のイスラエルは、神様が支配者として統べ治めていました。しかし、イエス様の時代には、国の主権を奪われ、ローマの支配を受けています。ユダヤ人は、異国によるイスラエルの支配が一時的なものだと信じ、再び神様がイスラエルを統べ治める日を待ち望んでいます。神様の統治が回復しローマの支配から解放される、新しい時代のイスラエルこそ、神の御国だと信じていました。つまり、ユダヤ人が思う天の御国とは、天上にある別世界のことでなく、この世が神様の支配の下で回復し、改まる御国のことです。

■ イエス様が宣べ伝えた天の御国

イエス様は、すでにご自身の働きを通して、神の支配が始まっていると言いました。天の御国はすでに私たちの内に来ていると言いました。(ルカの福音書 11:20, 17:20-21)

イエス様は、天の御国がご自身と一緒に世に来ていると教えました。別の意味では、まだ来ていません。だから、イエス様は私たちに次のような祈りを教えてくださいました。

「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。」

■ メッセージのポイント

天の御国に対する、弟子たちのイメージは、政治的なものでした。このような勘違いの中で、弟子たちがイエス様に尋ねます。「天の御国では、誰が一番偉いのですか。」

この質問に対する、イエス様の答えが今日のポイントです。

- (1) 「まことに、あなたがたに言います。向きを変えて子どもたちのようにならなければ、決して天の御国に入れません。」

- (2) 「だれでもこの子どものように自分を低くする人が天の御国で一番偉いのです。」

- (3) 「だれでもこのような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。」